共に アウシュビッツ解体のスクラムを

わたくし達、日大闘争救援会に、あらゆる人達に訴えます。日共と日大アウシュビッツ粉砕斗争を斗おう！と。二年以上に渡る斗争により、日大支配体制の粉砕をめざした、日帝権力との斗争は、ますますこうまく要請された。

日大全共斗の中核的活動家に集中的にみられる様に、ブヒラきまいた程、めちゃしい状況にまで、弾圧は厳しくなっています。

この日大（＝全国大学）にかけられている弾圧は、私達の明日の生活上にまで直接に関係してくる事自体のがす訳にはいきません。佐藤＝古田＝反動派・右翼一体となった弾圧は、まさにアウシュビッツ体制として登場し、それは日本の産業・国民の海外侵略への国内両輪として必要不可欠なものとして存在している。それゆえ、日大を頂点として存在するアウシュビッツは、明日の日経白資本＝帝国主義内閣＝自衛隊という、市民社会総体を一種のアウシュビッツ化していくものにほかなりません。

先取り的に強権圧がかけられている日大において強圧、「古田会長告発」「中村晋建観の告発告発」斗争が斗われており、学内においても、学部横断的なサークル・クラス斗争を中心として斗い抜かれています。

私達救援会も、労働者・学生の皆さんと共に、アウシュビッツ粉砕の斗いを行なって行きます。

共に、スクラムに入って、白山通りをうめつくしましょう!!

一九七〇年六月十三日　日大闘争救援会